

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200178		
法人名	綾歌の太陽株式会社		
事業所名	多機能型ホーム 綾歌の太陽		
所在地	丸亀市綾歌町岡田東901番地1		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念に記載されているように「世の為・人の為・いつも笑顔で」を常に考え、利用者様、ご家族様と我が家のように、家族のように、住み慣れた地域で隣近所の人々が楽しいひと時が持てる地域密着型の事業所として、お一人おひとりに適したサービスの提供を行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>職員は常に笑顔を絶やさず、「通所・訪問・宿泊」のサービスを利用者や家族の状況等により、一人ひとり柔軟に対応している。利用者は、カラオケ大会や「あやうたふるさとまつり」の他、地域の行事に参加したり、菜園で野菜づくりを楽しみ、季節に応じて花見に出かける等、住み慣れた土地や人たちとの関係継続を大切にされた支援を心がけている。地元の人から「銭太鼓」を教わったり、舞踏・大正琴・フラダンス等のボランティアの協力や、近くの幼稚園との交流が増えている。広く明るい開放的なデイルームでは、ゆっくりくつろぎ入浴を楽しむ等、その人らしい生活がうかがえる。また、飲み物の自動販売機やお茶、コーヒー等が自由に飲めるように給湯器を設置する等、当たり前の生活ができるような環境にある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が築いてきた地域との関わりを断つことなく継続支援し、職員全員が理念の持つ意義・役割を理解し、利用者様支援のための指針としている。毎日利用者様に全員が朝昼声かけを行っている。	職員は、利用者が地域で培ってきた関わりを大切にする気持ちを共有し、常に笑顔と声かけを心がけてケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様は地元の方が多いため地域行事には自由に出入りでき、積極的に参加できるよう支援している。また、近くの幼稚園の運動会の見学等にも行ってきた。	利用者がこれまで楽しみにしてきた、あやうたふるさとまつり・紅山のタベ・地元幼稚園の運動会等に参加し、地域との繋がりを大切にしている。また、事業所自ら地域の一員として、溝さらい等のコミュニティ行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の認知症の方にも積極的に支援を行い、カラオケやお話し合い等で昔のことを思い出され、自分の経験して来られたことを実践されている。また、最新の情報等を教えてもらうべく、市の担当者から勉強会等を開いてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、運営推進会議にご出席された民生委員、地元代表者、市担当者様の貴重な進言等に耳を傾け、改善を行っている。	民生委員、自治会代表者、市担当者の参加により2か月に1回開催し、運営状況を中心に報告している。参加者からは小規模多機能型居宅介護事業についての質問も多く、理解を深める機会となっている。時間等の関係もあり、家族等の参加については進んでいない。	家族・利用者をはじめ、より幅広い地域住民の代表等の参加について、引き続き検討が望まれる。また、評価結果や目標達成計画の取り組み状況を随時報告し、意見をいただき、更によりよいサービス提供に繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1年6か月が経過し、小規模多機能の難しさ等がわかってきている。市の担当者には色々ご指導をいただき、先日も当所の研修会に講師として参加願ひ、最新の情報を勉強することができた。	市の担当者には運営推進会議以外でも地域密着事業の取り組み等を折に触れて相談したり、研修会の講師として協力をいただきながら、より良い運営やサービス提供に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠については認知が進行し、問題行動が多くなり危険なため、また認知症の利用の方が増えており、家族等の来所も多く問題がある時もあるので、動きをよく見て対処している。	現在、身体拘束の事例はない。玄関は施錠せずに利用者の状況等によって見守りや同行を心がけている。拘束のないケアを目指し、研修や資料等から得た知識・情報を職員間で共有し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	国・県の方針に基づき勉強を行い、利用者様の自宅訪問時や事業所内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランにより自立支援を利用者様ごとに行っており、成年後見制度等については研修会で勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时及び契約時に必要な事柄や、料金改定時等において重要事項説明書・運営規定等を口頭で読み上げ、解りやすく説明し、利用者様に納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学会や体験会等を随時実施し、面談等を行い、当事業所の内容を説明している。また、意見箱を設置し、利用者様の意見をお聞きし、改善に努めている。ご家族もよく訪問されるので、その時現状等を説明している。	意見箱を設置しているが、実績はない。面会や送迎時に直接、意見や要望を聞き、対応することが多い。状況によっては家族に見学や体験をしていただき、話し合うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は随時現場の職員と対話できる形を取っているため、即断即決し改善に努めている。	代表者は一日に1回は事業所に出向き、現場の職員に声かけし、状況を把握するように努めている。管理者の笑顔と職員に接する雰囲気話がしやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ようやく1年6か月が経過し収支の見込みも立ち始めたのを受けて、少しずつではあるが改善に努めている。早く定員数に達するべく職員一同頑張っている。職員はパソコンの勉強等に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修にも積極的に参加させ、資格取得等を応援している。若い人には特に自分のためにも頑張るよう話しかけを行っている。パソコン等ができるようにハツパをかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ケアマネージャーは介護の経験が長く、人脈があり、積極的に情報交換、人脈利用を行っている。職員は資格取得時、講習会等で人脈作りに努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人及びご家族の皆様に当事業所を体験していただき、雰囲気等に納得してもらってから利用してもらっている。面談時にこれまでの経歴等を良くお聞きし、改善できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく利用されようとする方に見学・体験をしていただき、雰囲気に慣れてもらい、利用者様の要望をお聞きし、ケアプラン等を作って確認してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが中心となりじっくりと利用者様、ご家族のご要望に答えられるか否かを見ていただき、納得をしてからご利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として、また人生の先輩として接している。利用者様が少しでもゆったりと自分の時間が持てるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のご家族・親戚の方に自由な時間に訪問していただき、家族との対話・交流がゆっくりと持てるように配慮している。泊まりの方は自室にて面談が可能である。現在、ご家族・親戚の方がよくみえられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元中心で運営しているので、いつでも訪問してもらえる体制を取っているため、地元有志のカラオケ大会やボランティアによる舞踏・大正琴・フラダンス等の訪問がある。また、地域の方が銭太鼓を教えてくれている。	利用者との会話を大切にし、銭太鼓の教室を取り入れたり、急きよ、ひまわりやコスモスの花を見に行ったり、パンの店やスーパーへ買物に出かける等、馴染みの場所、人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな人生経験をされてこられた方が利用されているので、できるだけ共同の場が持てるように、カラオケを中心に季節のお絵描き、催し物、毎月のカレンダー作りに頑張らせていただいている。時々お買い物、まんのう公園の遊山に行かれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それぞれの理由があって利用契約が終了された方でも、今までの馴染みの関係を活用して時々訪問し、相談に努めている。再度当事業所を利用される方もおられる。入院された方にはお見舞いに行き、相談に乗っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約の時やちょっとした談話の時に、利用者様の今まで生きてこられた人生体験等をお聞きし、要望があれば対処している。	利用開始時のアセスメントや家族からの情報で、思いや暮らし方の希望、意向を把握しているが、関わりの中でじっくりと話を聞いたり、ちょっとした表情や行動から思いを察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学に来られた時や契約時のちょっとした談話時に、ご家族の方にご利用者様の今までの生活歴等をお聞きし、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態、その日の状況等を把握し、利用者様の身体の状態を連絡帳に記載し、職員全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、自ら現場に入り、利用者様の状況を見て、対応・指示を行っている。毎月モニタリングを行い、利用者、ご家族と相談し、3か月ごとに計画を見直している。	職員はケアを通しての気づきや要望等を連絡ノートに記載し、必要に応じてケアマネージャー、関係者との話し合いによりプランに活かしている。「通所・訪問・宿泊」のサービスを、利用者・家族の状況により柔軟に対応している。訪問でゆっくり話し相手になることで、利用者も家族も安心して共に生活できているケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護員が介護記録に利用者様の状況を記載し、朝の引継ぎ時に情報を交換し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりに朝・昼声かけを全員が行い、身体の状況等を把握している。利用者様は家族の一員として接している。小規模多機能のメリットを活かし、家族的な雰囲気大切にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中心で、近くの人や家庭の事情が分かる人が多く、昔からのお付き合いを継続して取り組んでいる。また、家族的でお節介をする間柄である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の楠原内科・整形外科を中心とし、専門医は、滝宮総合病院にお願いしている。また、個人病院については送迎を行っている。病院に行けない時は往診に来てもらっている。	自由にかかりつけ医を持っている。利用者や家族の状況に合わせて医療機関への送迎、往診、訪問による同行受診等により、適切な医療を受けられ、受診結果についても電話等で連絡し共有できている。関連病院等の連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者数との関係もあり、現在はパートの看護職員で対応している。看護の立場から、薬管理・バイタルチェック等について専門的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元医療機関との関係を密にし、利用者様の健康状態を見て処置してもらっている。医院からも総合病院への紹介等の支援してもらっている。病院のワーカー等と連絡し合って、退院、介護日時をきめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の運営規定上、重度化した場合や終末期の利用者はいないので、ご家族とお話することもないが、状況が変われば関係者とともにチームを組んで支援していきたい。現在、入居時リスク説明書を作成し、ご家族にご説明するように検討中。	現在は重度化や終末期にあたる利用者はいない。家族からは、将来に対する不安な声も上がっており、管理者は利用者、家族の要望に合わせて、重度化や看取りへの対応も考えている。	事業所の運営状況や職員の力量等に応じて、できること・できないことを見極め、段階的な対応方針、手順等を共有しながら、関係者との協議・検討を重ねることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、ケアマネージャー・介護福祉士の今までの経験を活かし対処している。緊急を有する場合は家族と連絡を取り、救急車を要請して、行きつけの総合病院に搬送してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに基づき対応していく。火災訓練は実施している。岡田コミュニティセンターと相談し対応している。地元の防災訓練にも参加していく。	直近の訓練では夜間を想定し、利用者も参加して夕方に実施した。事前に周知していたこともあり、スムーズに避難できた。地域コミュニティセンターや代表者の人脈を基に、地域との協力体制を築きつつある。	実践的な訓練を継続的に実施しながら、いざというときに慌てず確実な避難誘導ができるように、地域住民の協力も得ながら、事業所独自のマニュアル作成が望まれる。併せて、災害時の備蓄用品の整備も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人ひとりの、今まで生きてこられた環境等に配慮し、声かけを行い、今日一日を有意義に過ごしてもらっている。	日々の会話や声かけ、居室に入る時など、一人ひとりのこれまでの生活を尊重し、プライバシーを損ねることのない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	絵付け、工作、カラオケ等の自己表現ができる場の提供を行い、楽しさを味わってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ共同での場の活動を考えて支援をしているが、一人でゆっくりしたい利用者様に対しては、行動を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出入り自由のため、利用者様の行動に配慮し支援している。おしゃれをされて来た時は「きれいですね」等、声をかけている。踊りの支援時は着物等を借りて着用し、明るく、楽しいひとときを過ごされるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせた料理の対応はできていないが、歯の悪い方等には軟飯、きざみ等の個別対応を行っている。食事の片付け等はできる限り利用者様に協力してもらっている。	献立表はあるが、利用者の希望に応じて変更したり、収穫した野菜を追加することもある。下ごしらえや下膳等、できる範囲で参加している。一人ひとりの状況に応じて調理等に手を加え、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	白内障の手術を行わなければいけない方に栄養管理を行い、血糖値のコントロールを実施し、血糖値が下がり、手術が成功した事例がある。ベッドに長くおられる方には水分補給に注意し、対処している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて支援を行っている。昼食前には嚥下予防のため、カラオケ体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当初排泄チェック表を作成し、利用者様の排泄パターンを把握していたが、現在は把握できているので中止している。頻繁に排泄する方にはナースコールをお願いしている。	排泄パターンを把握しており、ほとんどの利用者が声かけ等の誘導により、トイレでの排泄ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜類を多めに食事し、大便のコントロールは処方された薬を服用し、排泄時間を昼間に合わせるように努めている。洗腸しなければいけなかった利用者が、現在は毎日自然排便があるようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	泊まりの利用者様は朝一番に広い浴槽にゆったりと入浴し、くつろいでもらっている。また、通いの利用者様の来所を待ち、お友達と一緒にゆっくりと入浴してもらっている。皆さんいい湯だなと言われている。	毎日、希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。広い浴槽で友達と一緒に入浴したり、状況によっては機械浴で対応する等で入浴が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊まりの方は、夕食後は自由に自室・ホールにて過ごされている。通いの方で身体の不自由な方に対しては、空き部屋を解放し休養してもらっている。一般の利用者様は、リクライニングシートの長椅子でくつろいでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬剤の中身を確認し、介護職員がわかるように服用明細表を作成している。また、バイタル表等の活用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広報ボードに『今日は何の日』を、字の上手な人を書いてもらっている。また、元気な人には、菜園で野菜づくりしてもらっている。カラオケで楽しまれており、昔のことを思われたり、言葉の回復に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	元気な人は出入り自由で活動してもらっている。また、季節の花見等の気分転換を行っている。時にはパン屋さんに皆さんで買い物に行く機会もある。泊まりの人は7~8名、ドライブがてらまんのう公園等に出かける。	利用者は自由に外へ出られるが、毎朝夕に声かけし、可能な限り散歩に出かけるようにしている。その日の利用者との会話からお花を見に出かけたり、パンの店でお茶をしたり、スーパーへ買い物に行くこともある。家族と外食される利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	独立心の強い利用者様は自分自身でお金の管理を行っておられる。管理できない方は家族が管理している。医療費等は事業所にてお金を預かり、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達との交流を進めるため、自由に電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂ホールには利用者様が持参された花が飾られ、利用者様が水替えを行ってかれている。また、事業所の造りは明るく、開放的で快適な空間を作り出している。ペンションみたいと言われる人もいる。	デイルーム・食堂は、吹き抜けの天井から自然光が入り、明るく開放的であり、マッサージチェア、テーブル、ソファでくつろぎ、自由にお茶を飲んだり、テレビ、カラオケを楽しんでいる。各所に配してある、利用者が持参し生けた花や作品等からも季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カラオケホール・手作りコーナー等、時期・時間に応じて活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が自由に居室まで入室できるので、他の人に気を使うことなく、家族の団欒が図られている。一部の方は愛用の道具等を持参し、居心地が良いようにされている。	家族も自由に居室に入室し、ゆっくりと歓談できるよう配慮している。自宅にいる時と同じように自分で掃除し、趣味の編み物が続けられるように見守る等、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう家族の協力も得ながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんが仲良く家族のように助け合い、声をかけあい生活をされている。		